

# 描写 Description

AIフルーエンシーの2つめの力。AIと効果的にやり取りし、あなたとAIが互いに最高の働きをできる「考える場」を作る力です。

## 描写の3つの要素 Three components

### 成果物の描写 Product Description

AIに作ってほしいもの・出してほしいものを、明確に定める。文脈／何を／どんな形式／読み手とスタイル。

### プロセスの描写 Process Description

AIがどう取り組むかを導く。方針（手引き）／一歩ずつの手順（料理本）／例を見せる、の3通り。

### ふるまいの描写 Performance Description

やり取り中に、AIにどうふるまってほしいかを定める。絞り込む/広げる・異議/同調・詳しく/簡潔 など。

## 主なポイント Key points

- ・出力の質は、何を・どんな形式で・誰に・どんなスタイルで欲しいかを、どれだけ明確に伝えられるかで決まります。
- ・AIはデータベースでも自動販売機でもなく、文脈でふるまいが変わる「対話する相手」です。
- ・描写を磨くと、AIは「汎用の便利屋」から、自分のニーズに合う「考えるパートナー」へと変わります。

---

本資料は、本家コース「AI Fluency」の描写レッスンの内容にもとづく、非公式・日本語のまとめ（KAKEHASHI）です。Copyright 2025 Rick Dakan, Joseph Feller, and Anthropic. CC BY-NC-SA 4.0 ライセンスのもとで公開。